

## 2025年度 第4回7月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2025年7月23日(水)
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室  
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数9名  
返信総数3名  
出席総数6名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	若井明香
	委員	高橋久夫
	委員	小川俊彦
	委員	藤原紀沙
	委員	井出智子
	委員	北條俊明

#### 4. 議 題

- (1) 「BREX CHANPIONS SPECIAL～MOVE ON～」宇都宮ブレックス優勝特番  
放送日 2025.6.28 土曜日 15:00～16:00

- (2) その他

#### 5. 議事内容

- (1) 「BREX CHANPIONS SPECIAL～MOVE ON～」について  
番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

## 議題説明

プロバスケットボールBリーグで見事チャンピオンに輝いた「宇都宮ブレックス」の優勝記念特別番組です。メインパーソナリティー進行のもと、チームの中心選手である遠藤祐亮選手、渡邊裕規選手、そしてこのシーズン限りで現役を引退した村岸航選手の3名をゲストに迎え、激動のシーズンを振り返る内容となっています。

栃木放送では毎週木曜日午後6時15分から宇都宮ブレックス応援番組「BEST BREX」を放送しており、蓄積された取材音源を交えての放送です。

## 各委員からは

- 最初に聴いた時は、正直何を話しているのか分かりづらく、仲良しグループの雑談のように感じましたが、2回目でようやく内容が理解できました。私は決勝戦をテレビで見た程度のにわかファンですが、優勝の話から始める構成にすれば、もっと興味を持てたかもしれません。ただ、内容自体はブレックスファンにとってはたまらない濃さで、裏話や選手の思いも多く盛り込まれており、アナウンサーがうまく引き出していたのが印象的でした。収録を1時間にまとめるのは難しかったと思いますが、話題の転換がやや急に感じられた部分もありました。誰が話しているのか分かるように名前の紹介があると、より聴きやすかったと思います。全体としては地元密着の良さが出た素晴らしい番組でした。
- 今回の番組で特に良かった点は2つあります。まず、映像がないラジオだからこそ想像力をかき立て、より深く思いを伝えられるという強みが発揮されたこと。もうひとつは、長年の応援番組を通じて築いてきたチームや選手との信頼関係が、貴重な音源や本音につながり、番組に深みとストーリー性をもたらした点です。スター選手に頼らず抑えた演出で思いを丁寧に届けた構成は非常に好感が持てました。ただ、ファンでない人にとっては少し距離を感じさせてしまった可能性もあり、今後は新たなリスナーにも届くような工夫が必要だと感じました。スポーツによって地域が盛り上がっている今、放送を通じてその後押しができるような役割を担ってほしいと思います。
- ファンにとっては、過去を振り返りながら当時の思いも聞ける、まさにファンのための番組だったと感じました。一方で初めて優勝を知って番組を聴いた人にとっては、誰がどの声か分かりにくかったり、時系列での構成が少し難しかったかもしれません。ただ、地元とのつながりや密着感がしっかり伝わる内容で、優勝特番としては十分に成立していたと思います。
- この番組は、率直に言って自分にはあまり響かなかった。優勝の盛り上がりを知っている身としては、もっと臨場感や背景がしっかり伝わる構成であってほしかったし、解説も足

りず、リスナーに十分伝わっていないと感じた。誰が話しているのかも分かりづらく、言葉遣いも耳障りに感じた部分があった。また、ラジオでは見えない花束やケーキの話が繰り返されるのも不親切だと感じた。ただ、選手の悔しさや努力の話など、参考になる部分もあり、ナレーションの進行自体は悪くなかったが、全体的に世代によっては共感しにくい番組だと思った。

○私は番組自体については詳しく分からなかったのですが、ファンの方に聴いてもらったのですが、「とても良かった」と感想をもらいました。アナウンサーの話の引き出し方もうまく、内容にも満足されていたようです。ただ、その方はそもそも番組の存在を知らなかったとのことで、栃木放送がこうした良質な番組を放送していることを、どう県民に知らせるかが課題だと感じました。番組のクオリティは高いのだから、それを活かしてリスナーを増やしていく取り組みが必要だと思います。

○私は一人のファンとして番組を聴きましたが、とても良い内容だったと感じました。スポーツ協会関係者としてブルックス選手とも接点があり、普段聞けない話が松井アナの巧みな進行で引き出されていたのが印象的でした。出演者の選定や放送タイミングも絶妙で、特に村岸選手の引退など話題性もあり、ファンにとっては深く刺さる構成でした。ただ、バスケット用語の専門性や情報量の多さから、一般リスナーにはやや難しく感じる場面もあり、解説を入れる工夫があればより良かったと思います。全体としては、地元密着の姿勢が伝わる非常に良質な番組だったと感じました。

○シーズン途中でヘッドコーチを亡くすという困難を乗り越えての優勝、さらに決勝戦も最後の1分まで勝敗が分からない激戦だっただけに、非常に価値ある勝利だと思います。ただ、放送を聴いた印象としては、50分という長さの中でテーマがはっきりせず、ゲストの話も雑談のように感じられ、一般リスナーには内容が伝わりづらかった印象があります。ブルックスをよく知る人には興味深かったと思いますが、そうでない方には最後まで聴いてもらえたか疑問で、もう少しメリハリのある構成が良かったと感じました。

○劇的な優勝を果たしたブルックスの選手たちの素顔や苦労話が聞ける貴重な番組で、監督の急逝や過去の敗戦も含めた長期的な取材による深みのある内容だったと感じました。地元メディアだからこそ実現できた番組で、選手への親しみを感じたリスナーも多かったと思います。ただ、アナウンサーと選手の距離が近すぎて、特番というより仲間内の振り返りのような雰囲気があり、もう少し改まった構成でも良かったと感じました。初心者には誰が話しているのか分かりにくい場面もあり、今後のファン拡大を意識した工夫も必要だと思います。

○「実はあの時」というテーマでシーズンを振り返り、選手の本音が聞けるファンにとってはたまらない番組だったと感じました。選手たちは謙虚な態度で、開幕連敗の不安や強豪千葉ジェッツへの敬意、コーチの急病時の動揺とチームの結束、厳しい練習など率直に話っており、とても好感が持てました。番組中にはファンの祝福の声や、雨の中5万人が集まったパレードの話もあり、地元で愛されていることが伝わりました。私はバスケットボールに詳しくはありませんでしたが、実際に試合を観戦して盛り上がりを実感し、今後も宇都宮ブレックスを応援したいと思います。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

#### 6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

#### 7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2025年7月27日）
- ② 当社のホームページに掲載（2025年7月28日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2025年7月28日～）

以上